

園だより



ひなぎく

令和3年10月29日

子育てのヒント

園長 渡邊 博典

気温差の大きい日々が続き、朝晩は冬のような寒さを感じるようになりました。急激な温度変化に体調を崩す園児も少なくありません。長く続いた緊急事態宣言も解除になり、日常が徐々に戻りつつありますが、感染症対策はしばらくの間、しっかりと行わなくてはなりません。アプリを使っただけの日々の体温チェックもよろしくお願いします。

10月初日は台風接近のため自由登園としましたが、約半数の園児が登園しました。翌日運動会の天気予報は快晴、しかし台風一過の園庭がどのような状況になっているか知る由もなし。早朝よりお父様方にお手伝いしていただき、園庭のコンディションも上々、保護者の皆さんの温かい声援の中、子ども達の笑顔がはじける行事ができましたことに感謝申し上げます。真剣な表情で頑張る子どもたちのかけっこや演技は、ほほえましくもあり、大きな成長の姿でした。

さて、先日出席した講演会の講師（元全日本女子バレーボール選手 益子 直美さん）から、子育てに通じる貴重なお話が伺えたので紹介したいと思います。保護者会の方も2名参加していただきました。実は、テレビでその内容が紹介され、一度聞いてみたいと思っていた矢先にこのチャンスに恵まれ、参加を決めました。

監督が「怒らない指導」をどのように実現させるかというものでした。

どんな状況でも怒ってはいけないというのではなく、ルールや約束を破ったり、周りの友達を一方的に傷つけた時にはしっかりと叱ることも必要である。プレーに対して監督の感情を子どもたちにぶつけるのは子どもたちの心に恐怖心がいつまでも残るので、それらを排除して指導の工夫をし、スポーツ本来の楽しさを味わってもらいたい。昭和の時代には、メンタルを強くするには、怒って怒ってその選手をとことん追い込んで精神力を鍛えるという考えが、スポーツ界を席卷していた。バレーボールも例外ではなかった。バレーボールをやっていて楽しいと思ったことが一度もない。しかし、時代や指導の在り方が変化した現在では、「怒らない指導」を通して選手の心をどのように整えるか、監督も選手も学ばなければならない。

また、「ペップトーク」についての興味深い話もありました。

「ペップトーク」とは、スポーツの現場などで行うポジティブな言葉掛けのこと。(1) 受容（事実の受け入れ）(2) 承認（捉え方の変換）(3) 行動（してほしい変換）(4) 激励（背中へのひと押し）、以上の4つを組み立てることで、相手のやる気を引き出したり、相手を元気づけたりすることができるのがペップトークの特徴。短い言葉掛けでまとめることにより、相手にとって理解しやすく、本来持っている力を発揮しようとする気持ちになる。

子育ての中でも「ペップトーク」は有効な手立ての一つではないでしょうか。関心のある方はインターネットや書物等で調べていただけたらと思います。

【お祝い】 佐藤さく子前副園長が、船橋市功労表彰を受けることになりました。永年の本園における幼児教育への功績が高く評価されました。

【連絡】 令和4年1月1日からひなぎく幼稚園の電話番号とFAX番号が変わります。

●旧電話 047-431-3569 (FAXも同じ) しばらくの間、音声で新番号が流れます。

○新電話 047-420-3606 新FAX番号 047-420-3607 (すでに新電話番号は使えます)